

ヨシ群落保全基本計画改定のポイント

ヨシ群落の現状

- ◆ヨシ群落面積の回復
- ◆ヤナギの面積比率が増加
- ◆湖辺の攪乱の減少等の環境の変化
- ◆侵略的外来水生植物の侵入
- ◆企業やボランティア、NPO等の保全活動への参画

社会情勢

- ◆自然環境の回復に加え、持続可能な循環共生型社会（生態系だけでなく、地域資源としても着目）
- ◆琵琶湖の保全及び再生に関する法律
- ◆SDGs(持続可能な開発目標)
- ◆CO₂ネットゼロ

計画改定の視点

- ヨシ群落の現状と課題への対応
- 第五次滋賀県環境総合計画の考え方
「環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環」

これまでの課題

- 「ヨシ群落の質的な変化への対応」
…画一的な理想像を求めるヨシ群落保全の限界
- 「少子高齢化等による地域の関わり方の縮小」
…行政主体の地域協議会の限界
- 「県のヨシ群落保全に関する事業量の縮小」
…全県的な維持管理事業の限界
- 「企業等のヨシ刈り意欲の高まりへの対応」
…始めにくい、定着しない
- 「ヨシやヤナギの活用が進まない」
…ヨシ刈り等の保全活動の行き詰まり

改定のポイント

量的回復(造成)から質的向上(維持管理)へ

地域を支えて、地域とともに持続的な取組へ
(かかわる、いかす)

地域の特性に応じた保全
事業者やボランティア等の力を活かす
地域資源としての循環利用
保全活動の効果の可視化

SDGsとMLGsへの貢献